

**2017  
BEST  
FACULTY  
MEMBER**



*University of Tsukuba*

# 2017 BEST FACULTY MEMBER

人文社会系	山田 重郎 教授	……………	1
人文社会系	五十嵐 沙千子 准教授	……………	2
ビジネスサイエンス系	倉橋 節也 教授	……………	3
数理物質系	青嶋 誠 教授	……………	4
数理物質系	長崎 幸夫 教授	……………	5
数理物質系	中村 潤児 教授	……………	6
数理物質系	守友 浩 教授	……………	7
システム情報系	岩田 洋夫 教授	……………	8
システム情報系	工藤 博幸 教授	……………	9
システム情報系	櫻井 鉄也 教授	……………	10
システム情報系	谷口 守 教授	……………	11
生命環境系	沼田 治 教授	……………	12
生命環境系	村山 祐司 教授	……………	13
人間系	一谷 幸男 教授	……………	14
人間系	山中 克夫 准教授	……………	15
体育系	大藏 倫博 准教授	……………	16
体育系	吹田 真士 助教	……………	17
芸術系	國安 孝昌 教授	……………	18
医学医療系	大河内 信弘 教授	……………	19
医学医療系	島野 仁 教授	……………	20
医学医療系	野口 雅之 教授	……………	21
医学医療系	原 尚人 教授	……………	22
医学医療系	松本 正幸 教授	……………	23
図書館情報メディア系	呑海 さおり 教授	……………	24
図書館情報メディア系	落合 陽一 准教授	……………	25
計算科学研究センター	矢花 一浩 教授	……………	26
生命領域学際研究センター	鍋倉 宰 助教	……………	27
DACセンター	河野 禎之 助教	……………	28

# 山田 重郎 教授

**所属** 人文社会系

**専門分野** 古代西アジア史  
楔形文字学



## — 業績 —

シリアの遺跡テル・タバんで日本隊が発見した粘土板文書の解読・研究、「世界最古の帝国」新アッシリア帝国の領土拡大のプロセスと行政組織の研究、古代メソポタミアの書記教育カリキュラムや歴史記述の研究などを精力的に行い、顕著な成果をあげている。また、本学のICR（人文社会国際比較研究機構）及び西アジア文明研究センターの運営において中心的役割を担い、人文社会分野の研究をリードしている。

## 略歴

財団法人中近東文化センター共同研究員、筑波大学歴史・人類学系助教授等を経て、平成20年4月より現職。

# 五十嵐 沙千子 准教授

所属 人文社会系

専門分野 哲学  
倫理学



## — 業績 —

一般市民を対象に、身近なテーマについて哲学者を交えて話し合う「哲学カフェ」を通算120回開催（延べ2,400人参加）し、「哲学」を社会に開く活動を牽引してきた。また、「アクティブラーニング」を通して授業と学校風土を変革する研修を、教育委員会・高校等の依頼により日本各地で実施して非常に高い評価を得ているほか、有名企業等に対して、対話理論とU理論に基づく組織改革・コンサルティング・研修を行い目覚ましい成果を出すなど、人文学領域における産学連携を積極的に進めている。

## 略歴

東海大学文学部専任講師等を経て、平成19年4月より現職。  
東海大学において“Teaching Award”（最優秀授業賞/教職員1,600人中第一位）受賞。

# 倉橋 節也 教授

所属 ビジネスサイエンス系

専門分野 知能情報学



## — 業績 —

エージェント・ベース・モデルや最適化技術に研究の基盤を置く、社会シミュレーション分野の第一人者であり、その研究成果は学術界でも実業界でも高い評価を得ている。平成28年度には、「新型感染症対策」「都市動態予測」「サービス利用の意思決定」「イノベーション普及の要因分析」「電力市場設計」「金融システムリスク分析」等、実社会の要請にも合致する幅広いスコープでなされた質の高い研究を行っている。

## 略歴

計測・制御システム関連の民間企業に勤務後、筑波大学ビジネス科学研究科助教授、科学技術振興機構研究開発戦略センター特任フェロー等を経て、平成28年6月より現職。

# 青嶋 誠 教授

所属 数理物質系

専門分野 統計科学  
統計数学・応用数学



## — 業績 —

遺伝子解析等の高次元データ解析に、高次元統計解析と呼ばれる新たな分野を築いた世界的に著名な先端研究者である。その方法論は、理論と応用の両面で統計学の発展に多大な貢献をしており、2017年には日本の統計界の最高位の賞である日本統計学会賞を受賞した。統計関連6学会連合により日本の統計コミュニティを代表する国際学術誌の編集長として招かれ、Springerから新雑誌を創刊した。国際統計協会の日本代表として国際会議を多数開催し、日本学術振興会では科研費審査委員表彰を2度受賞している。BEST FACULTY MEMBER 表彰も2度目である。

## 略歴

東京学芸大学教育学部助教授、筑波大学数学系助教授等を経て、平成19年11月より現職。数理科学研究コア長。

# 長崎 幸夫 教授

---

**所属** 数理物質系

**専門分野** 生体医工学・生体材料学  
高分子・繊維材料



## — 業績 —

高分子合成、バイオナノ界面の設計によるバイオマテリアルの創成等を専門とする。「活性酸素を制御するバイオマテリアルの構築」（科研費基盤研究(S)）や、「一酸化窒素リリース型インジェクタブルゲルの設計と虚血疾患への展開」（挑戦的萌芽研究）等、当該分野において牽引的かつ顕著な研究業績を挙げている。高分子学会理事・関東支部長、日本バイオマテリアル学会理事等を務める。

## 略歴

東京理科大学基礎工学部助手、講師、助教授、教授を経て、平成16年10月より現職。

# 中村 潤児 教授

所属 数理物質系

専門分野 触媒・表面化学



## — 業績 —

長年にわたる触媒と表面科学の融合研究への功績が認められ日本表面科学会からフェロー称号および学会賞を受けた。2016年にScience誌に発表したカーボン触媒（燃料電池用非白金触媒）の活性点に関する論文では引用回数が既に500回を超えている。さらに、ACT-Cプロジェクト（総額約2.8億円）でCO<sub>2</sub>を有用化学品（メタノール）へ転換する研究を進め、Angewandte Chemieに発表したCO<sub>2</sub>活性化機構の論文がホットペーパーに選出される（TOP10%以内）など活発な研究活動を行っている。

## 略歴

インディアナ大学およびワシントン大学研究員、筑波大学物質工学系講師、助教授等を経て、平成18年6月より現職。

# 守友 浩 教授

所属 数理物質系

専門分野 物性Ⅰ  
物性Ⅱ



## — 業績 —

融合科学研究センターのエネルギー部門の部門長としてエネルギー物質科学の研究を行っている。特に、最先端放射光X線を活用して、二次電池物質や太陽電池物質の科学の深化に貢献してきた。また、酸化還元反応を利用した熱電変換素子に関して、NIMS、AIST、KEK、筑波大の4機関の代表者として、TIAかけはし事業「未利用熱エネルギーを変換する熱発電素子」を推進した。現在は、材料の最適化を通じて熱変換効率をカルノー効率に近づけるべく、研究開発に邁進している。

## 略歴

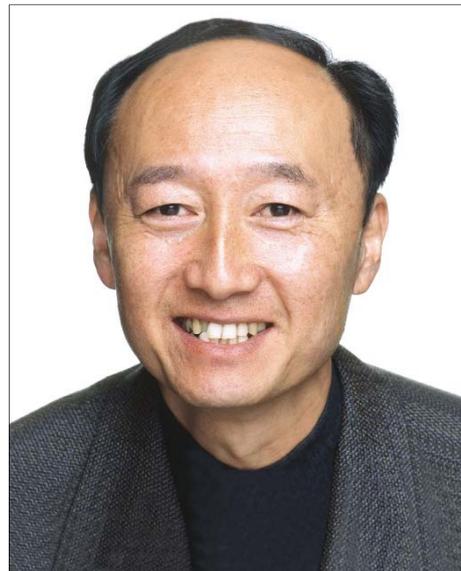
日本学術振興会特別研究員、技術研究組合オングストロームテクノロジー研究機構リサーチ・サイエンティスト、名古屋大学工学研究科助教授等を経て、平成17年6月より現職。

# 岩田 洋夫 教授

---

所属 システム情報系

専門分野 人間情報学



## — 業績 —

グローバル教育院エンパワーメント情報学プログラムの学位プログラムリーダーとして、優れた教育を実施してきた。

その結果、平成28年度に行われた当該プログラムの中間評価では、人材育成の拠点となる「エンパワースタジオ」や、学位の質保証システム等が高く評価され、最上位である(S)評価を得た。(S)評価のプログラムは、全リーディングプログラム62件の中でも9件だけであり、筑波大学のプレゼンス向上に大きく貢献している。

## 略歴

筑波大学構造工学系助手、講師、助教授等を経て、平成14年4月より現職。平成26年4月～現在、エンパワーメント情報学プログラムリーダー。

# 工藤 博幸 教授

**所属** システム情報系

**専門分野** 知能情報学  
医用システム  
生体医工学・生体材料学



## — 業績 —

CTにおける画像再構成の分野において世界トップレベルの研究を行っており、特に、世界初のマルチ検出器CT提案、PET画像再構成法DRAMAの開発、圧縮センシングCT画像再構成法を世界に先駆けて提唱、インテリアCT画像再構成の厳密解法発見等の業績を挙げている。これらの業績が認められ、これまでに、電子情報通信学会フェロー等19回の受賞を受けている。「Medical Imaging Technology」誌編集委員長、日本医用画像工学会副会長等を務め、社会貢献でも大きな実績を挙げている。

## 略歴

東北大学工学部助手、筑波大学電子・情報工学系講師、助教授等を経て、平成21年4月より現職。

# 櫻井 鉄也 教授

**所属** システム情報系

**専門分野** 数値解析学  
計算数理・データ解析・  
画像解析・人工知能



## — 業績 —

コンピュータを前提とした数学、データおよび画像の解析アルゴリズム、ディープニューラルネットワーク計算アルゴリズム等を研究している。スーパーコンピュータ向けの固有値解法として Sakurai-Sugiura法 (SSM)を提案した。この解法に基づいて JST/CRESTプロジェクトにおいて固有値解析エンジンz-Paresを開発している。また、研究成果の実用化のためにMathDesign社を設立した。日本応用数理学会「産業における応用数理研究部会」主査、「応用数理ものづくり研究会」幹事を務めている。

## 略歴

名古屋大学工学部助手、筑波大学電子・情報工学系講師、助教授等を経て、平成17年12月より現職。平成29年4月～現在、人工知能科学センター長。放送大学客員教授、理化学研究所客員主幹研究員、MathDesign社CEO。

# 谷口 守 教授

**所属** システム情報系

**専門分野** 都市・地域計画  
環境計画  
交通計画



## — 業績 —

主要な研究成果が国土交通省の国土審議会、環境省の中央環境審議会など官公庁の枢要な審議会で活用・制度化された。中でも都市計画を変えた立地適正化計画は300を超える自治体で取り組みが進み、国際的にも参照され、研究成果の実社会への還元に大きく寄与した。2016年11月、新たな研究分野（サイバースペースへの交通行動分析）を確立したとして、交通分野において国内で最も権威ある米谷・佐佐木賞（創研部門）を受賞した。

## 略歴

京都大学工学部助手、カリフォルニア大学バークレイ校客員研究員、筑波大学社会工学系講師、岡山大学環境理工学部、助教授、教授等を経て、平成21年4月より現職。

# 沼田 治 教授

所属 生命環境系

専門分野 細胞生物学  
形態・構造



## — 業績 —

平成20年4月に菅平高原実験センター長に就任、同センターの活性化及び改革に注力し、平成29年4月には同センターを発展させた山岳科学センターの創設を実現させた。また、本学と信州大学、山梨大学、静岡大学から山岳科学のスペシャリストを集結させた山岳科学学位プログラムの創出にも大きく貢献した。さらに、平成28年4月に研究科長・副研究科長連絡会の座長に就任し、全学的な大学院学位プログラム化に向けて尽力している。

## 略歴

筑波大学生物科学系準研究員、上越教育大学学校教育学部助手、筑波大学生物科学系講師、助教授等を経て、平成13年4月より現職。平成20年4月～平成27年3月、菅平高原実験センター長。平成28年4月～現在、生命環境科学研究科長。

# 村山 祐司 教授

所属 生命環境系

専門分野 地理学  
空間情報科学



## — 業績 —

我が国の中でも早くから、技術としての地理情報システム（GIS）に注目し、空間的な解析を伴う新しい学問「空間情報地理学」の可能性を提唱・実践し、学問として確立した第一人者であり、地理学会のみならず、関連する研究者のコミュニティにおいて、非常に高く評価されている。また、公益社団法人日本地理学会の理事長として、地理学の普及に尽力するとともに、14の学術誌の編集委員長・編集委員を歴任。現時点において、8つの国際学術誌の編集委員を務めている。現在日本学術会議・連携会員。

## 略歴

筑波大学地球科学系準研究員、三重大学人文学部講師、助教授、筑波大学地球科学系講師、助教授を経て、平成13年7月より現職。

# 一谷 幸男 教授

**所属** 人間系

**専門分野** 実験心理学  
行動神経科学  
行動薬理学



## — 業績 —

日本生理心理学会の評議員・理事長、日本神経精神薬理学会の評議員として学会の運営に大きく貢献した。日本生理心理学会の優秀論文賞選考委員長を務めるなど、関係学会の学術誌の充実、情報発信にも尽力した。また学内では、総合研究棟Dの共同利用施設である動物実験施設の設置以来、14年に渡りその責任者として設備の充実、衛生管理、施設維持資金の調達、説明会実施など、管理運営に大きく貢献してきた。

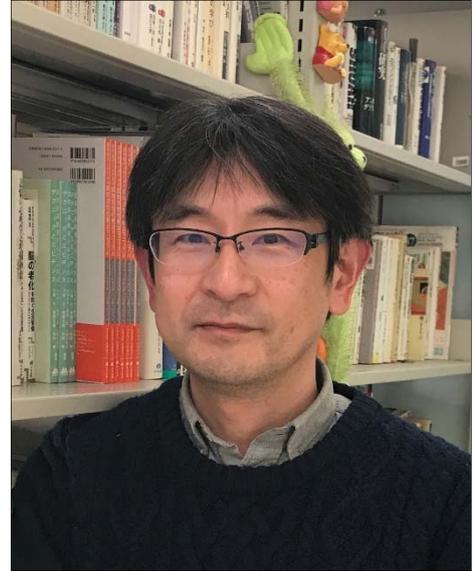
## 略歴

鳴門教育大学学校教育学部助手、京都府立医科大学解剖学教室助手、筑波大学心理学系助教授を経て、平成16年4月より現職。平成24年4月～26年3月、人間学群長。

# 山中 克夫 准教授

**所属** 人間系

**専門分野** 臨床心理学  
実験心理学  
社会福祉学



## — 業績 —

認知活性化療法をはじめ、認知症ケアの心理社会的介入プログラムやそのシステム化、アセスメントの開発に精力的に取り組んでいる。世界で最も利用されている認知症の知識尺度Alzheimer's Disease Knowledge Scale (ADKS)の日本版を開発し、我が国の認知症やアルツハイマー病の啓発プログラムの効果検証等への応用が期待される。また、つくば市の地域包括支援センター評議委員会副委員長、地域密着型サービス運営委員会副委員長等を務め、社会貢献でも大きな実績を挙げている。

## 略歴

筑波大学心身障害学系準研究員、助手、講師等を経て、平成21年12月より現職。

# 大藏 倫博 准教授

所属 体育系

専門分野 応用健康科学



## — 業績 —

文部科学省革新的イノベーション創出プログラムCOI STREAM「食と健康の達人サテライト拠点」の推進担当者の他、竹中工務店など4社との共同研究代表者を務め、社会実装に資する研究を活発に展開した。また、スポーツ庁における「スポーツガイドライン」策定委員や地方自治体において健康増進に関する委員会の委員長や委員を務めるとともに、健康増進に関するNPO法人の理事長を務め、自身の研究成果を地域や被災地の健康づくりに役立てる実践活動も積極的に行った。

## 略歴

セコム上信越株式会社、ペニントン・バイオメディカル・リサーチ・センター研究員、筑波大学人間総合科学研究科講師等を経て、平成22年4月より現職。

# 吹田 真士 助教

---

所属 体育系

専門分野 バドミントン方法論



## — 業績 —

バドミントン部の指導者として、他を圧倒するフィジカルレベルの構築と緻密な戦術的技能の向上を図り、2016年度には女子チームが全日本学生選手権大会3連覇を達成した（2017年10月に4連覇達成）。また、部内に障害者部門を設置してパラバドミントン競技の指導にも取り組み、本学を練習拠点にしている卒業生がアジア選手権3位の成績を残すなど、バドミントンの指導を中心としたコーチング学分野の教育領域で極めて優れた実績を上げている。

## 略歴

筑波大学体育センター準研究員、人間総合科学研究科助手を経て、平成19年4月より現職。

# 國安 孝昌 教授

**所属** 芸術系

**専門分野** 現代美術  
美学・芸術諸学



## — 業績 —

日本のトップの現代美術作家として国内外で多数の業績を残している。特に、平成28年度においては、東京都美術館開館90周年記念展「木々との対話—再生をめぐる5つの風景」において、日本を代表する5人の作家の一人として選出され、高さ12mの彫刻展示室を5,000本の丸太、スチール単管500本、10万個の陶ブロックで埋め尽くす国内最大級の展示を行い、高く評価された。また、同展示により2017年環境芸術学会学会賞を受賞した。その他、茨城県北芸術祭招待出品、茨城県近代美術館における〈筑波大学総合造形展〉でも成功をおさめた。

## 略歴

神奈川県立有馬高等学校教諭、筑波大学芸術学系準研究員、助手、北海道教育大学教育学部札幌校講師、筑波大学芸術学系講師、助教授等を経て、平成25年4月より現職。

# 大河内 信弘 教授

所属 医学医療系

専門分野 外科学一般



## — 業績 —

日本における消化器外科の第一人者であり、特に肝胆膵外科、生体肝移植を専門としている。つくばライフサイエンス協議会の委員として、つくばの生物資源を基盤とする創薬開発の研究推進に尽力した。日本外科学会評議員、日本肝胆膵外科学会評議員等を務める。

## 略歴

仙台市立病院、東北大学医学部附属病院、東北大学医学部助手、講師、助教授等を経て、平成14年6月より現職。  
平成22年4月～平成26年3月、筑波大学附属病院副病院長。

# 島野 仁 教授

所属 医学医療系

専門分野 代謝学  
分子生物病態学



## — 業績 —

エネルギー代謝の転写調節機構、生活習慣病の分子病態の研究に取り組み、エネルギー代謝制御研究において世界的な業績をあげてきた。発生工学動物、分子生物学的手法を駆使して脂質代謝の転写制御機構解明の研究を手がけ、エネルギー代謝のホメオスタシスにおける転写因子ネットワークパラダイムを提唱した。特に、脂質合成転写因子の生理的意義や生活習慣病の病態への関与を、動物モデルで実証し、そのメカニズムを分子レベルで解明してきた (Nat Rev Endocrinol 2017)。

現在、臓器脂質の量と質の違いを視点に様々な疾患の病態の解明と新規治療理念の創出を目指している。

## 略歴

東京大学医学部卒、同第三内科、テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター、筑波大学臨床医学系講師、助教授等を経て、平成20年2月より現職。

# 野口 雅之 教授

所属 医学医療系

専門分野 人体病理学



## — 業績 —

2007年に、他県では類を見ない、大学を中心とした地域病理診断包括支援システム“つくばヒト組織診断センター”を附属病院の部局として立ち上げ、以来10年間に渡って茨城県内の基幹病院における病理診断を支援するとともに研修医の研修教育を行ってきた。その診断件数は10年間で77,877件に及ぶ。茨城県内の高度な医療水準を維持し、かつ全国に向けて新しい病理診断システムを示した点で、極めて大きな功績を挙げている。

## 略歴

筑波大学附属病院、財団法人がん研究振興財団、国立がんセンター研究所等を経て、平成8年7月より現職。

# 原 尚人 教授

所属 医学医療系

専門分野 乳腺内分泌外科



## — 業績 —

筑波大学附属病院手術部長として、附属病院手術部の年間手術数を平成24年度6,648件から平成28年度8,708件まで増加させ、そのうち半数以上を高難度手術が占めるという極めて大きな功績を挙げている。専門である乳腺甲状腺内分泌外科領域においては、年間総手術数を過去5年間で289件から454件まで増加させ、甲状腺癌手術数は昨年度全国国立大学第一位であり、乳癌手術数も関東トップクラスに成長させた。また、当該学会において理事、各種委員長としても貢献している。

## 略歴

東京女子医科大学内分泌外科、国立国際医療センター、シカゴ大学医学部客員研究員、筑波大学臨床医学系講師等を経て、平成20年6月より現職。

平成26年4月～現在、筑波大学附属病院副病院長。

# 松本 正幸 教授

**所属** 医学医療系

**専門分野** 神経生理学・  
神経科学一般



## — 業績 —

高次脳機能の解析を行い、特に注意や情動、推論、学習、意思決定、意欲などの心理現象を実現する脳のメカニズムを解明することを目標に研究している。その中で、ドーパミンニューロンが報酬や罰に関わる神経シグナルを伝達していることを明らかにした。本研究は高く評価されており、「ドーパミン神経の多様性：報酬シグナルと認知・行動シグナルの解明」の研究業績で、平成28年度の日本学術振興会賞を受賞した。

## 略歴

自然科学研究機構生理学研究所、米国国立衛生研究所、京都大学霊長類研究所助教を経て、平成24年12月より現職。

# 呑海 さおり 教授

**所属** 図書館情報メディア系

**専門分野** 高齢者と図書館  
知識情報基盤



## — 業績 —

認知症支援をテーマに超高齢社会における図書館サービスの研究を通じて社会貢献活動を積極的に進めてきた。その活動は雑誌論文や報告書、新聞などのマスメディアの取材を通じて、高齢者／認知症サービスに取り組む全国の図書館及び類縁機関における実践の高度化とサービスの向上に大きく貢献している。

これらの活動成果は図書館界のみならず社会福祉や医療の領域の進歩に大きく寄与しており、卓越した社会貢献活動は本系教員の範となっている。

## 略歴

京都大学図書館職員、奈良女子大学図書館職員、筑波大学図書館情報メディア研究科助教、准教授等を経て、平成27年10月より現職。

# 落合 陽一 准教授

**所属** 図書館情報メディア系

**専門分野** 専門はCG、HCI、VR  
視・聴・触覚提示法  
デジタルファブリケーション  
自動運転や身体制御



## — 業績 —

機械知能と人間知能の連携について波動工学やデジタルファブリケーション技術を用いて探求。2015年より、一般社団法人未踏理事、一般社団法人バーチャルリアリティコンソーシアム理事。2017年より筑波大学 学長補佐、大阪芸術大学客員教授、デジタルハリウッド大学客員教授。受賞歴として、IPA認定スーパーリエータ・天才プログラマー（2010年）、ワールドテクノロジーアワード（2015年）、プリアルスエレクトロニカ Honorary Mention（2016年）、グッドデザイン賞（2014年、2015年）、経済産業省 Innovative Technologies賞（2014年、2015年、2016年）、ザンガレンシンポジウム 明日のリーダー200人、ベストナレッジプール40人に選出（2017年）、文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品:アート部門/エンターテインメント部門（2017年）など。

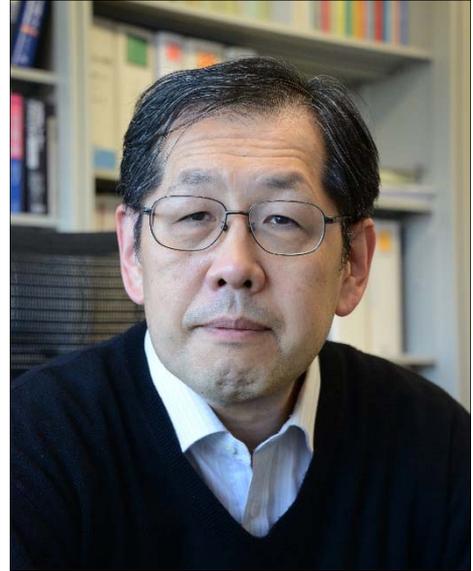
## 略歴

2015年東京大学大学院学際情報学府博士課程早期修了、博士(学際情報学)。その後、ピクシーダストテクノロジーズ株式会社創業、フェーズドアレイ技術やデジタルファブリケーション技術の開発に関わる。2015年より筑波大学図書館情報メディア系助教 デジタルネイチャー研究室主宰。2017年よりピクシーダストテクノロジーズ株式会社と筑波大学の特別共同研究事業「デジタルネイチャー推進戦略研究基盤」基盤長/准教授。

# 矢花 一浩 教授

**所属** 計算科学研究センター

**専門分野** 計算物質科学・光科学  
原子核理論



## — 業績 —

物質科学の第一原理計算を光科学分野に応用し、スーパーコンピュータを用いた大規模計算により、パルス光からガラスへの超高速エネルギー移行、ならびに、光サイクル以下の時間スケールで起こるダイヤモンド光応答の超高速変化の研究で優れた成果を挙げた。また、開発した光・電子融合第一原理計算コードARTEDが「京」コンピュータにおいて優れた性能を達成したことにより、HPCI優秀成果賞を受賞した。

## 略歴

日本学術振興会特別研究員、新潟大学理学部助手、助教授、筑波大学物理学系助教授等を経て、平成14年10月より現職。

# 鍋倉 宰 助教

**所属** 生命領域学際研究センター

**専門分野** 免疫学  
血液学



## — 業績 —

自然免疫で重要な働きを持つナチュラルキラー（NK）細胞が、強いエフェクター機能・二次増殖機能・優れた生体防御能を有する記憶NK細胞に分化し、免疫記憶に寄与することが明らかになりつつある。これら記憶NK細胞の分化における分子機序の一端を解明した。同業績は当該分野で非常に高く評価されているImmunity誌や、The Journal of Experimental Medicine誌に論文が受理される等、顕著な業績を挙げている。

## 略歴

日本学術振興会特別研究員、筑波大学研究員、カリフォルニア大学サンフランシスコ校研究員を経て、平成26年3月より現職。

# 河野 禎之 助教

**所属**           ダイバーシティ・アク  
                      セシビリティ・キャリ  
                      アセンター

**専門分野**   臨床心理学  
                  老年心理学  
                  社会福祉学



## — 業績 —

本学のダイバーシティ推進に係る業務全般と教育活動等を取りまとめている。文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の主要な牽引者として、その採択に尽力したほか、複数の外部資金の獲得と運営の中心を担っている。また、大学初となるLGBT等に関する基本理念と対応ガイドラインの策定でも中心的役割を果たす等、当該分野での本学のプレゼンス向上に著しく貢献した。研究においても、専門とする認知症ケアの概念をダイバーシティの観点から拡張し、Dementia Friendly Communityに関する国内の主要な研究者として認知されている。

## 略歴

プロメディコ株式会社、筑波大学人間系特任助教を経て、平成27年4月より現職。



筑波大学  
*University of Tsukuba*

筑波大学 BEST FACULTY MEMBER  
表彰制度に基づき、2016年度の教育  
研究活動において、極めて優れた業  
績を上げたと認められ、表彰された  
本学教員を紹介しております。

編集・発行／問合せ先  
国立大学法人筑波大学  
企画評価室  
TEL 029-853-2047  
Mail [ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp](mailto:ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp)